令和３年度　学校自己評価　中間報告

重点目標		具体的取組		主担当	実施状況の判断基準	判定基準	集計結果	成果・後期に向けての改善
1	授業実践力の向上	①	各教員が単元ごとに計画を振り返り、修正や見直しを行うことで授業改善につなげる。	研究研修課	各単元が終わった後にその振り返りを行い、他の単元や次年度の単元計画の修正や見直しを年間３回以上行った教員の割合が A　８０％以上である。 B　７０％以上である。 C　６０％以上である。 D　６０％未満である。	【達成目標　B以上】 C以下の場合は、取り組みを再検討する。	各単元が終わった後にその振り返りを行い、他の単元や次年度の単元計画の修正や見直しを年間３回以上行った教員の割合 42% 判定　D	アンケートを行った9月段階では、各学部で研究授業を実施したのが1回であったこともあり、2回以下の教員の割合が多かった。今後、各学部で1回以上研究授業を実施する予定があることや、年度末に向けて単元計画を見直す機会が増えることが予想されている。よって、後期は単元計画の修正や見直しをする回数が増えると思われ、また、32%の教員がすでに2回実施していることから、3回以上実施できる割合は70%を超えると思われる。
		②	児童・生徒が主体的にタブレット端末を活用できる授業に取り組む。	情報教育課	児童・生徒が主体的にタブレット端末を活用する授業を行った教員の割合が A　８０％以上である。 B　７０％以上である。 C　６０％以上である。 D　６０％未満である。	【達成目標　B以上】 C以下の場合は、取り組みを再検討する。	児童・生徒が主体的にタブレット端末を活用する授業を行った教員の割合（高等部を除く） 67.6% 判定　C	高等部へのタブレット端末の配布が次年度になったため、アンケートの結果から高等部教員を除いた。授業でのタブレット端末の活用を目指し、月に１回程度の研修会を行った。タブレット端末を含むICT機器を積極的に活用しようとする教員が増えた。アンケートでいいえと答えた教員の理由には、研修の内容が不十分であったこと、障害特性やタブレットの操作性があっていない児童生徒に対する環境が整っていなかったことが考えられる。今後は、研修会の内容を見直し、実践報告会やタブレット端末の活用法を中心としたものとし目標が達成できるように取り組みたい。
2	組織的・系統的なキャリア教育	①	児童生徒が家庭での自分の役割をもち、それを継続して行うことができる。	小学部 中学部 高等部	家庭での自分の役割について、別途指定する一週間のうち、４日以上取り組めた児童生徒の割合が A　７０%以上である。 B　６０%以上である。 C　５０%以上である。 D　５０%未満である。	【達成目標　B以上】 C以下の場合は、取り組みを再検討する。	家庭での自分の役割について、一週間のうち、４日以上取り組めた児童生徒の割合 小学部：７６％ 判定Ａ 中学部：５９％ 判定Ｃ 高等部：６０％ 判定Ｂ	小学部は、達成率76%でA評価であった。これは、保護者と担任とで毎日達成できそうな目標としたためであると思われる。これにより、「できた」と児童が達成感を感じ、次の目標へとつながると考える。 中学部は５９％でＣ評価であった。複数の目標を設定した生徒が多く、家庭と連携し前向きにチャレンジした結果だと推測される。今後は、この期間だけの取り組みではなく継続した取り組みとし、未達成の目標を達成できるようにしたい。 高等部は６０％でB評価であった。実習中の生徒がいて実施が難しかったり、複数の目標を設定したが全ての目標達成には至らないケースがあった。「継続」「できることを増やす」という感想も見られたので、家庭・担任との情報交換を十分に行い、自立を見据えた目標を設定し有意義な取り組みにしていきたい。

重点目標		具体的取組		主担当	実施状況の判断基準	判定基準	集計結果	成果・後期に向けての改善
3	安心・安全な学校づくり	①	各学部、各クラスで携帯電話等に関する学習を取り入れる。	学校安全課 生徒指導課	年間２回以上、携帯電話等に関する確認や学習を行ったクラスの割合が A　８０％以上である。 B　７０％以上である。 C　６０％以上である。 D　６０％未満である。	【達成目標　B以上】 C以下の場合は、取り組みを再検討する。	年間２回以上、携帯電話等に関する確認や学習を行ったクラスの割合 65% 判定　C	中・高等部では、携帯電話等使用者に対して該当者を集めての指導も実施しており、全てのクラスで２回以上学習を行っているという結果が得られた。小学部では使用者も少なく、なかなか難しい現状ではあるが長期休業前等の機会を捉えて指導中である。２学期中には小学部の集会でも指導を取り入れる予定であり、全学部で年間を通して２回以上の指導が可能になると考えている。
		②	校内の「性に関する指導」の授業内容を共有し、系統的な指導に取り組む。	健康推進課	他学部の「性に関する指導」の授業を１回以上参観し、担当学年の指導に活かした教員の割合が A　80%以上 B　70%以上 C　60%以上 D　60%未満	【達成目標　B以上】 Ｃ以下の場合は、取り組みを再検討する。	他学部の「性に関する指導」の授業を参観し、担当学年の指導に活かした教員の割合 29.8% 判定　D	授業の様子をビデオ中継する等、参観しやすい環境を作り、他学部での指導内容を知るきっかけを作ることはできた。しかし、9月までの「性に関する指導」の授業数自体が少く、空き時間と重ならなかったために、参観できなかった教員も多かったと考えられる。今後は、各学部へさらに、「性に関する指導」への取組を促すとともに、昨年度作成した「性に関する指導」の教材の活用も促していきたい。
4	業務の効率化	①	学級経営や校務分掌において、効率的な情報伝達や情報共有の方法を進める。	全教員	情報伝達や情報共有を効率的になるように工夫した回数が学期に２回以上の教員の割合が A　８０％以上である。 B　７０％以上である。 C　６０％以上である。 D　６０％未満である。	【達成目標　B以上】 C以下の場合は、取り組みを再検討する。	学期に２回以上工夫した教員の割合 87.9% 判定　A	業務の効率化を目指し、効率的な情報伝達や情報共有に焦点化して取り組んだ。アンケートでは６つの工夫を例示して目標回数以上であったかを問い、87.9%の教員が２回以上の工夫をしたことがわかった。回答者の半数以上がＩＣＴを(主にTeams)活用した情報伝達や情報共有をしていること、会議を円滑に進める意識をして参加していることがわかった。現在、取り組んでいる工夫を継続しながら、新たな工夫を検討したい。また、今後は情報伝達や情報共有を工夫することが業務の効率化に結び付いているかどうかの検証も行いたい。